

走行チェックシート

日付	2013年9月29日 (日)		時間	15:05 ~		イベント	2013MFJ全日本ロードレース選手権シリーズ第8戦	
天気	晴れ		マシン	GSX-R1000 L3		ライダー	寺本幸司	
コース	名称	岡山国際サーキット				気温	26 °C	
	コンディション	ドライ				気圧	992 hpa	
	路面温度	38		(計測時間 15:00)		湿度	36 %	
エンジン	スパークプラグ	NGK R0373A-10		エンジンOIL	シェルアドバンス ウルトラ10W-40			
	ファイナルレシオ	15 × 42(2.8)						
トランスミッション	1st	A(36/17)	2.12	4th	A(30/21)		1.43	
	2nd	A(37/20)	1.85	5th	B(28/21)		1.33	
	3rd	A(32/20)	1.60	6th	B(26/21)		1.24	
フロント	パーツ名	SHOWA(760mm)		TEN	-6			
	スプリング	10.00	N/m	OIL	SR6 #5			
	自由長	-	mm	油面	195		mm	
	イニシャル	17	mm	残ストローク	mm			
	COMP	-8		突き出し	STDトップブリッジで0mm突き出し mm			
リア	パーツ名	SHOWA(321.5mm)		TEN	-15			
	スプリング	95.0	N/m	残ストローク	mm			
	自由長	-	mm	リンク	SPL			
	イニシャル	13	mm	リンクロッド	mm			
	COMP(HI)	+2		車高	STD+20.5mm ピボット-2mm スイング長603mm mm			
COMP(LO)	-10							
タイヤ	フロント			リア				
	銘柄	ダンロップ		銘柄	ダンロップ			
	サイズ	125/80/R420		サイズ	210/60R420			
	エア圧	2.1		エア圧	1.5			
チェック	順位	12	位	ベストラップ	1' 33. 275(予選) 1' 31. 940(事前テスト)			
	水温		°C	油温	°C			
	ガソリン	IN	-	ℓ	走行距離	km		
OUT		-	ℓ	燃費	km/ℓ			

<コメント>

皆様お待たせいたしました。
 全日本に戻ってきました。
 今回はチームの事情でライダーが寺本選手での岡山ラウンド出場となります。今回のピットの雰囲気若干関西風味になりました♪
 さて今回は寺本選手がル・マン24時間耐久レースに出場するためメーカー合同事前テストに参加できませんでした。
 そのため更に一週前に岡山国際サーキットにて独自に事前テストを行いました。
 寺本選手にとって久しぶりのスプリントレースです。
 事前テストの車体セットは鈴鹿8耐を走行したセットでスタートします。
 このサーキットは前半の高速セクションと後半のテクニカルセクションで全然セッティングが変わります。
 スピードが乗ってタイムを大幅に詰められるのは前半ですが、後半のセクションに車体を合わせていくほうが結果タイムアップにつながります。
 後半セクションのタイトなコーナーはマシン自体の旋回性能以上には曲がらないため、コンパクトに旋回できるという車体作りが重要になってきます。
 車体の方向としてはピッチングを多く、パネレートを上げすぎないような方向で進めていきます。
 テストは大きく振ることで方向性を見つけます。最初は旋回を出すためにフロントを下げていきましたが、だんだんフロント荷重がきつくなりいいところが少なくなったのでヘッドパイプ位置を上げて(突き戻して)運動性能を上げ、高い位置からストロークさせるようにしたところタイムがアップしました。
 そこそそ路面温度も上がり、八耐の決勝タイヤを履ける路面温度でアタックして1' 31. 940で自己ベストを更新。
 次回レースウィークの課題も見えてきましたので対策して望みます。
 さてレースウィークに入り、初走行しましたが思ったより路面状況もよくなく、気温もテストに比べて低いのでタイヤが思ったより機能しません。
 特に岡山国際サーキットは路面のグリップがよくないのでフィーリングが激変します。
 エンジンを中心にセットアップをして車体もアジャストしつつ路面に合わせます。
 そんな状況の中二本目のセッション中に寺本選手が転倒。ライダー、マシンともに結構な大ダメージでした。
 翌日左ひざの負傷を抱えながらの予選となりましたがQ1でオーバーランしてまた転倒してしまいました。
 今回の転倒の影響は少なくすぐに修理しタイヤを交換して再度アタック。
 1' 33. 275のタイムで14番手グリッドを獲得。
 明けて決勝日マシンにまたがるのもやっとの状態でしたがグリッドにつくことができました。
 朝フリーからもアベレージタイムはあまり良くなく厳しいレースになることは分かっていました。
 決勝スタートして1周目は14番手で通過。しかし次の周には2台パスして12位へポジションアップ。
 レース中は33秒台で走行となりました。前の集団とも徐々に離れてしまい一人で淡々と周回数を消化していきます。
 レース終盤身体がきつい状況でも最後の最後まで諦めず、さらにタイムを上げてこようとするライダー根性は素晴らしかったです。
 結果は12位でゴール。久しぶりのハードなレースウィークでした。
 今回は最終戦鈴鹿です。そこでも精一杯のパフォーマンスを出せるように頑張ります。
 応援ありがとうございました。

レーシングサブライ
 畑中 健太郎